

令和5年度 学校評価の報告

市川三郷町立市川中学校
校長 上田 真司

グランドデザイン「取組の指標」に対する学校評価の考察

評価 A:思う B:まあまあ思う C:あまり思わない D:思わない
(1)→1学期の結果数値 (2)→2学期の結果数値 達成:青 未達成:赤

I. 確かな学力の育成に関して

●①あなたは授業内容が理解できていますか？(取組の指標:AB 85%以上)

〈集計結果及び状況分析〉

- ・生徒 「A・B」と回答した生徒が(1)93,7%→(2)95%、「C」と回答した生徒も減った。多くの生徒は、授業内容の理解を自覚している様子が伺える。
- ・保護者 ②「教師は分かりやすい授業に努めている」において、「A・B」が約90%と回答があり、保護者からも高い評価を得ている。
- ・職員 2学期の「確かな学力の育成に関して」項目①～④⑥～⑧の回答は、「A・B」が90%以上と高い結果となった。しかし、③の「個に応じた学習指導の充実が図られた」の回答は「AB」(1)89,6%→(2)100%と向上したもののその内訳は「B」評価の割合が高い。個に応じた指導を目指しているが、授業者1人での授業では充実させることの難しさが伺える。

●ICT機器の積極的、効果的な活用

〈集計結果及び状況分析〉

- ・生徒 ②「先生方は分かりやすくするためにICTの活用(タブレットなど)や教材の工夫をしていますか」に対して「A・B」(1)97,2%→(2)95,7%と回答しており、ICTを活用した授業の展開がほぼ毎日行われていること伺える。
- ・職員 ②「ICT機器の積極的な活用が図られた」に対して「A・B」(1)89,4%→(2)95%と回答しており、生徒が感じている通り、ICTを活用した授業の工夫がなされている。

【参考】全国学力学習状況調査

1・2年生の時に受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。(取組の指標:週1回以上使用40%以上)
週1回以上 94,9%(内訳:ほぼ毎日11,9% 週3回以上50,8% 週1回以上32,2%)

〈本校の取組及び来年度に向けて〉

確かな学力の育成に向けて、2学期は多くの職員が、交流授業や公開授業を通して授業力向上のためのOJT(現場での学び合い)に意欲的に参加した。これによりICTの活用や個に応じた学習指導、グループ学習の充実等が図られ、生徒の授業理解や保護者からの高い評価につながった。一方で個に応じた学習指導を充実させるためには、TTや支援員などの複数教員での指導体制の構築が必要であり、引き続き町にもお願いしていく。来年度も、校内での組織的なOJTの充実と「研修制度」を有効に活用し、授業改善を日常化し、「授業力」と「生徒指導力」の向上に努めたい。

●④あなたは、自主学习・ノートなどの家庭学習に積極的に取り組んでいますか。

(取組の指標:AB80%以上)

〈集計結果及び状況分析〉

- ・生徒 「A・B」が(1)74,2%→(2)76,6%であり、昨年度とほぼ同様である。生徒自身、家庭学習への取組について不十分である自覚が見られるとともに、生徒自ら意欲的に取り組めていないと推測される。
- ・保護者 ①「A・B」が68%であり、昨年度より約5%増加したものの、生徒の家庭での様子を知っている保護者が生徒の家庭学習への取組は不十分であると感じている。
- ・職員 ⑤「家庭学習の習慣化と内容の充実が図られたか」は(1)94,7%→(2)75%、「C」が(1)5,3%→(2)25%の結果であった。家庭学習への取り組み方を職員も課題と考えている。

〈本校の取組及び来年度に向けて〉

全ての学年で、例年のように家庭学習の定着を目指し「自主学习」の取組を行ったり、定期テスト前を中心に、放課後の学習会や家庭学習の取組を行ったりした。また、昨年度に引き続き、1年生は、県の学力向上キャラバンによる家庭学習の充実に向けた取組を実施したが、結果は指標到達に至らなかった。今後は、家庭学習(宿題・自主学习)の習慣化、内容、取り組み方等生徒の学力を定着させる家庭学習について、今までの実践の成果と課題を出し、検討する必要がある。また、2年間校内研で行ってきた小中連携を引き続き続け、小学

校段階からの宿題への取り組み、自主学習のあり方等、家庭学習の習慣化にも努めていきたい。
来年度はeライブラリーを活用した全校体制での組織的な家庭学習の取組を実施する予定である。

●読書活動の推進

〈集計結果及び状況分析〉

【参考】図書貸し出し冊数（取組指標全校で1000冊以上）

昨年度2学期終了時に633冊、3月終了に720冊であり、指標には届かなかったが3学期1月終了現在の**全校貸出数835冊**。月時点で昨年度の冊数を超えていることから、読書意識が高まっていることが伺える。1・2学期の図書委員の取組（読書運動・便りの作成・図書館イベント・町図書とのコラボ等）などにより、生徒の読書意欲や読書意識の向上につながっている。図書館利用者数も前年より増えている。

Ⅱ.豊かな心の育成に関して

●⑤学校生活は楽しく充実していますか。（取組の指標:AB 85%以上）

〈集計結果及び状況分析〉

・生徒 「A・B」が(1)93%→(2)93,6%であり、前年とほぼ同様の結果となった。多くの生徒が充実した学校生活を送っている様子が伺える。

〈本校の取組及び来年度に向けて〉

コロナが5類となり感染防止対策を行いながら、学校行事を推進してきた。そして修学旅行、宿泊学習、校外学習、職業体験、合唱発表会、陵風祭などの大きな学校行事を参観人数を昨年より増やして、予定通り実施することが出来た。また、部活動は、大会前の強化週間とテスト前活動停止期間のメリハリある実施、効率の良い練習内容の工夫等により、各部とも素晴らしい成果をあげることが出来た。この項目に関しては、達成率100%を目指したいところであり、そのためには、個人面談やアンケート調査により、生徒に寄り添い、生徒の声を聞き、生徒の思いを把握し、解決に向けての最大限の手立てを講じることが出来る体制の構築に努めていきたい。

●⑥いじめを許さない雰囲気がありますか。（取組の指標:AB 85%以上）

〈集計結果及び状況分析〉

- ・生徒 「A・B」が(1)86,8%→(2)87,9%、「C・D」が約12%となり、前年とほぼ同様の結果となった。ただし、「⑧他人には思いやりをもって接していますか」では、「A・B」が(1)95,1%→(2)97,2%と高い結果が見られる。2つの回答に約10%のズレが生じ、この傾向も昨年度と同様である。「他人に思いやりを持って接している」一方で「他人がいやだと思ふことをしている」生徒がおり、「いじめはない」と感じていないと考えられる。
- ・保護者 ⑤「学校はいじめのない正義の通る学校づくりに努めている」の「A・B」が90%とあり、学校の取組に対し、一定の評価をしているとみなすことが出来る。
- ・職員 ⑨「いじめを「許さない」「させない」指導の徹底がはかられた」の「A・B」が(1)(2)ともに100%であり、自己評価としては高い結果となった。しかし、生徒の結果と約12%のズレがある。この傾向も昨年度と同様である。

【参考】(道徳調査) (取組の指標:A70%以上)

「友だちの大切さがわかり、互いを励まし合う努力をしていますか」

結果:Aよくできている61,4% Bだいたいできている34,5% →AB=95,9%

⑥の結果同様に、「友だちの大切さ」は理解できているが「互いを励まし合う努力」や行動がまだ、足りないと感じているのではないかと考える。

〈本校の取組及び来年度に向けて〉

「生徒一人一人が大切にされる学校」をスクール・モットーに、生活ノート、日常的な面談、SC・SSW等による相談体制の充実、小学校、町の子育て支援課、生き生き健康課、医療機関等の外部と定期的に連携し、今後も生徒や保護者の思いに寄り添った指導の徹底を図る。また、来年度からの「ユニバーサル制服」導入にあたり、「校則」や「心得」の見直しについて臨時生徒総会が開かれた。さらに、市川中オリジナルのSDGs18番目の目標「毎日を幸せと思えるように」とした。その内容を全生徒、全職員がしっかりと心に留めて新たな伝統を語り継いでいく必要がある。また、「特別の教科 道徳」では、内容項目2「人間愛・思いやり」「信頼・友情」「寛容・謙虚」「尊敬・感謝」といった他の人との関わりに重点をおいて引き続き指導していく。「いじめをゆるさない雰囲気」については指標は達成しているが、生徒内の意識の差や生徒と職員の意識の差に対して対策を講じたい。そして、誰一人取り残さない学校づくりに努めていきたい。

●⑦あなたは、友だちや先生方、来校者などにしっかりあいさつをしていますか。

〈集計結果及び状況分析〉

- ・生徒 「A・B」が(1)97,2%→(2)97,9%で2学期は生徒会の取り組みもあり「あいさつへの意識」がさらに高い結果となった。
- ・職員 ⑫「A・B」が(1)73,7%→(2)95%と回答し、前年より約5%増加した。生徒会や学年の取り組み等で生徒の意識が高まり行動に現れてきたことを職員も感じている結果となった。

〈本校の取組及び来年度に向けて〉

生徒会では「あいさつ運動」を活動の重点とし、SDGsの視点からも「あいさつ隊」を編成するなどして取り組んだ。また毎日の登校時や下校時における職員による校門での指導や廊下等でのすれ違いあいさつによっても、その成果が表れている。中学校を訪れる、業者やスクールガードリーダーの皆さんからも何度か生徒のあいさつに対してお褒めの言葉を頂いた。生徒の自己評価と教員の評価の差がほぼ無くなった。今後もあいさつに対する高い意識を維持できるように、継続的な指導に努めていきたい。

Ⅲ. 健康・安全の向上に関して

●家庭と連携した健康教育の推進

〈集計結果及び状況分析〉

【参考】生活習慣実態調査

『平日の就寝時刻が「零時」以降の割合』(取組の指標:保健調査15%以内)

6月 28名/155名 18.1% ⇒ 11月 29名/151名 19.2%

(養護教諭の考察より)

社会の変化の中で今後もメディア使用が長時間化しやすいこと、就寝時刻が遅くなること(睡眠不足・睡眠負債)等が危惧される。

6月と11月ではほとんど変わらない結果となった。目標値には達しなかったが、変わらないことが一つの成果だと感じている。昨年度のスタートは今年度と同じく、18%だったが、12月には23%となっていた。例年中1～中2にかけて急激に就寝時刻が遅くなっていることから、1年生で睡眠について指導してきた。今年度は教育講演会で睡眠を取り上げ全校で学習することができた。また、3学期には、さらに1,2年生でタイムマネジメントについて指導した。

子ども達がやる気を持って学校生活を過ごす基盤として、睡眠・栄養・運動は見逃してはならない要素である。思春期であり、好奇心が強い中学生への指導は難しいが、発信し続けることが必要であり、同時に保護者への情報発信も必要だと感じる。

〈本校の取組及び来年度に向けて〉

*実態調査:ひとり一人の生活リズムの様子が把握でき、職員との情報共有ができた。来年度も継続していきたい。

*予防的集団指導:教育講演会・学級指導

一定の効果があると思われる。来年度も学級指導は1年生を対象にタイムマネジメントについて実践していきたい。

*保護者との連携:保護者用ほけん日よりして実態を情報共有

PTA保体部の親睦レクレーションの際に、参加者に直接、実態の情報提供と家庭でのルール作りを勧めた。来年度も積極的に連携したい。

●⑭あなたは体力向上のために積極的に運動に取り組んでいますか。

〈集計結果及び状況分析〉

- ・生徒 「A・B」が(1)83,2%→(2)78%の回答で前年と同様な結果となった。(2)は3年生の部活動引退や下校時刻が早いことでの部活時動時間の短縮も一因と考えられる。
- ・教員 ⑳「体力テストの結果分析と課題の改善が図られた。」の対して「A・B」の回答が(1)89,5%→(2)100%であった。

【参考】立ち幅跳びの4月と1月の記録 (11月予定変更で1月に実施)(取組指標 新体力テスト10cm増)

1年生男子	185.1→176.6(-8.5)	1年生女子	153.1→156.1(+3.0)
2年生男子	182.4→197.3(+14.9)	2年生女子	164.9→166.3(+1.4)
3年生男子	215.8→204.7(-11.1)	3年生女子	169.4→150.4(-19.0)

(体育主任教諭の考察より)

結果として「10cm増」の目標を達成したのは、2年生男子のみだった。また、記録が向上したのは、1年生女子、2年生男女で、低下したのは1年生男子、3年生男女だった。3年生の記録低下については、部活動を引退し運動機会が極端に減ってしまうことが要因として考えられ、この時期の体力の維持や向上は難しさを感じる。2年生男子については、記録が大幅に向上しており、各部活動で、限られた時間の中で運動量を確保したメニューを実践した成果だと考えられる。また、体力が著しく向上する成長期であることも要因の1つである。今後は保健体育の授業でも積極的にトレーニングの要素を含んだ運動を取り入れてきたい。今年度はウォーミングアップで縄跳びを取り入れたが、ウォーミングアップや補助運動のメニューを工夫していきたい。

〈本校の取組及び来年度に向けて〉

季節や体育行事に合わせ体育種目の選択と実施、準備運動など体力向上に向けて体育授業を工夫している。冬場、下校時刻が早いと、12月部活無しとしていたが、帰りの会後から短い放課後にランニングなどの体力作り実施の要望が2年生の部長会からあり、10分間実施した。来年度も生徒の意向を確認する中で体力作りをすすめていく。

IV. 地域・保護者との連携に関して

●⑧学校は家庭への連絡や情報提供を積極的に行っていますか。(取組の指標:AB85%以上)

〈集計結果及び状況分析〉

- ・生徒 ①⑥「積極的に文書やホームページでの発信」については「A・B」が(1)87,4%→(2)93,5%と学校の情報提供を評価した。
- ・保護者 ⑧「情報提供」については、「A・B」が90%と高い結果となった。また、⑨「保護者や地域との連携」では、「A・B」が89,3%と高い結果となった。しかし、約11%の方が、連携不足を感じている。
- ・教員 ②⑤「ホームページの充実」について「A・B」が(1)78,9%→(2)100%となり、②⑥「たよりの計画的な発信」について「A・B」が(1)78,9%→(2)100%となった。2学期は行事も活動制限がほぼ無く、生徒の活動の様子を積極的に発信できた。

〈本校の取組及び来年度に向けて〉

学校としては、各種たよりの発行や学校ホームページを通して、保護者への情報提供や情報共有に積極的に取り組んだ。また、安心・安全メールを効果的に活用し、迅速で正確な情報提供にも努めてきた。一方、保護者には、安全確保のための行事等への参加制限にご理解いただき感謝している。来年度も、様々な工夫を凝らし、開かれた学校づくりに努めていきたい。

●⑳小中連携が図られていますか。(取組の指標:A 50%以上)

〈集計結果及び状況分析〉

- ・職員 「A・B」が(1)79%→(2)95%と高い結果となった。しかし、「A」は前年同様40%であり、指標は達成できなかった。今後も日常的なより充実した連携が必須であると感じている。

●㉑「地域学校協働本部の活動の充実」と㉒「学校家庭地域連携推進協議会の活動の充実」さらに㉓「みさと学の推進」

〈集計結果及び状況分析〉

- ・生徒 ①⑦「地域が関わっている学習に進んで取り組んでいますか」に対して「A・B」が(1)80,4%→(2)92,2%と回答し、生徒が意欲的に取り組めたことがわかる。
- ・教員 ②⑦(1)94,4%→(2)95% ②⑧(1)84,2%→(2)95%
③⑩(1)84,2%→(2)100% の回答で教員も高い評価となった。

〈本校の取組及び来年度に向けて〉

前年より、県の研究指定を受け「教科担任制」の研究に取り組んだ。この中で、それぞれの生活参観に全員が参加し異校種授業を見合った。小中合同の授業研究会や児童・生徒に関する情報交換の場を持つこともできた。今後も小中連携を続け、スムーズな小中接続のための「小中ギャップの解消」に努めていきたい。また、今年度はふるさとキャリア教育「みさと学」として1学年の「地域巡り(史跡・企業訪問)」や2学年の「職場体験学習」を地域コーディネーターを介して行うことができ、生徒にとっても有意義な学びとなった。成果と課題をまとめ、系統的な地域との関わりについて、さらに進めていきたい。